

学体連会報

発行日 平成 7 年 3 月 31 日
 東京都渋谷区代々木神園町 3 番 1 号
 国立オリンピック記念青少年総合センター内
 財団法人 日本学校体育研究連合会
 電 話 (03) 3 4 6 5 - 3 9 5 4
 F A X (03) 3 4 6 5 - 7 4 6 4
 発 行 者 浅 田 隆 夫

就任のごあいさつ



会 長 浅 田 隆 夫

会長就任後、はや 8 カ月が過ぎました。県段階の関係各位には既にごあいさつをさせていただきましたが、本日は、私が「学体連」のしごとに関わらせて頂くようになりましてから印象に残る一つのことながらについて触れ、ごあいさつに代えさせていただきますと思います。

最近では皆様のご協力により全国大会の開催県は数年前には決定されるようになりましたが、以前は、いわゆる一本釣りでもいった方式で、既開催県を念頭に当方で大会を引受けて頂けそうなところに打診しては決めていました。年によっては、2 年前になっても開催地が決まらず、仕方なしに引続き同じところで引受けて頂くといったこともありました。しかし、1981 年頃だったと思いますが、沖縄県が組上にあがっていました。「本部」では内々話を進めていましたが、埒が明かず徒らに時間が過ぎていきました。

周知のように、沖縄は 1936 年以降第 2 次世界大戦最後の日米両軍の地上戦闘の場となり、以後 27 年間アメリカの戦略拠点として日本から分離され支配されてきたところで、1972 年日本に復帰後も日米安保体制の軍事拠点として米軍基地に占有 (20%) され、様々な政治的社会的諸問題を惹起させていました。当時沖縄はまだ、本土に対する過去のわだかまりもあり、容易によい回答が得られませんでした。私は、このような時にこそ本土と沖縄の体育・スポーツ関係者が一堂に会し、胸襟を開いて交流し合うことは実に有意義なことだし、また、沖縄県下の学校体育はもちろん県民のスポーツ文化振興のためにも必要なことではないかと考え、とにかく、御地に出向いてお願いすることにしました。もちろん、不首尾に

あさだたかお 1919 年、兵庫県生。東京文理大卒・同研究科修。筑波大学名誉教授、教育学博士。現在 目白学園女子教育研究所顧問、日本道德教育学会常任理事、日本レジャーレクリエーション学会会長、日本スポーツ教育学会会長、日本体育学会体育科教育学専門分科会顧問、日本スポーツ哲学会名誉会長など。

終わる場合もあると考え、旅費などは自分で準備いたしました。私が沖縄県当局の方々にお会して説得させて頂いたことがらは、要するに、大会は開催県「の」、「……による」、「……のための」もの以外の何ものでもないことを力説いたしました。幸い、この結果は第 23 回沖縄大会 (1984 年) として結実いたしました。

本会にとって全国大会は、最も大きなイベントであるだけに、それが成功裏に終わるか否かは本会の存在意義に関わることであります。したがって、開催年度が決定しましたら、できるだけ早く大会に向けて組織づくりをし自らの課題 (授業) 研究に取り組んで頂きたいと思ひます。早く準備にとりかかることが事後の若手研究者を豊かに育てることにものなると確信しているからです。

これらのことは、今回の阪神大震災がいみじくも私達に教えてくれました。すなわち、1. 私達がいま必要な「もの」こそが文化といえるものであること。2. また、生き残った人の生活のしかたやスタイルが文化というべきものであるということ。3. 生活に必要なものは遺産 (灰燼に帰したもの — 文明) といった方がよいのではないかということ。4. 文化の対概念は自然だから新しい都市の再興に当っては自分の住む自然環境のあるべき姿を創造し、これを社会システムとして構築すべきだということ。5. このためには下からのボランティアズムに支えられたネットワークづくりにより、新しい文化 — その土地の人々に共有されている「誇り」 — の再生に向けて継続的な努力が望まれるということ……などでした。体育・スポーツ文化 (教育) のあり方や考え方もこれと軌をいつにするものといえましよう。

第33回大会(石川県)「理事・評議会」及び「代表者会議」議事録



常務理事 松田 智 男

日時 平成6年10月19日(水) 14:02-16:43

会場 石川県厚生年金会館 会議室

司会進行: 神田俊郎常務理事

記録: 松田智男常務理事

学体連会長挨拶 浅田隆夫会長
議長の選出 岡野伊与次理事長

報告事項

- 平成6年度理事・評議員・代表者会議の議題
議題と資料1～資料8迄の説明と確認
- 平成6年度第1回理事・評議員会の報告
 - 役員の改選 新会長に浅田隆夫先生を承認
 - 平成5年度の事業・決算・監査報告の承認
 - 平成6年度の事業計画と予算案の審議と承認
6年度の予算1,651万円(平成5年度は2,009万円)
 - 平成6年度全国学校体育優良校・功労者表彰
 - 平成7年度以降の全国大会開催県
7年: 香川県 8年: 秋田県
9年: 奈良県 10年: 中国地区
秋の大会迄に相談できるように。
 - 第33回全国大会石川大会の準備状況
 - 分担金の値上げ
審議の結果、3案が正式に決定する。
 - 賛助会員の募集
個人の一般会員は年五千元。終身会員は五万円。100名の申し込み者がいる。
 - 特別賛助会員の取扱い
 - 会報31号の発行 ・平成6年度の研修会
 - 平成6年度の理事・評議員の選出
 - 中学校の指導書の頒布状況
四千部印刷、3,050部を頒布、贈呈
残部の頒布促進に協力を依頼する。
- 平成6・7年度常務理事の事務分担
今年度は財務、総務、会計、庶務、事業の5部として仕事を遂行する。
- 平成6年度役員・理事・評議員

まつだともお 1930年山形県生。東京教育大学体育学部卒業、芝学園、区立城南・三河台中、都立城南・稲城高教諭、都立京橋高教頭、都立八王子北高校長。元関東地区高校・東京都高校保健体育研究会会長。現在 東京都教育庁人事部人事計画課嘱託。

評議員等が決定したら早く本部に連絡する。

- 加盟団体のアンケート調査
各都道府県の回答結果を大畑常務が発表する。
 - 新役員交代の時期 4月: 9%、5月上旬: 11%、5月中旬: 14%、5月下旬: 23% 6月以降: 24%、その他: 14%です。
 - 補助金について 貰った事がある: 41%、貰った事がない: 54%、この一年間貰っていない: 14%です。貰っている補助金もわずかです。
(1)(2)を参考にしながら、本部への協力をお願いします。
- 体育実技研修について
 - 幼稚園: 7月28・29日、台東区立竹町幼稚園と平成小学校体育館で実施、57名が参加。
 - 小学校: 8月1・2日、千代田区立麹町小学校で実施、50名参加。
 - 中・高校: 7月8日、文化女子大学付属杉並高校で、ニュースポーツ(インディアカとユニホッケー)の研修会を実施、30名参加。

審議事項

- 平成7年度以降の全国大会開催県について
毎年、全国大会は東部-中部-西部の順に行っています。平成7年度は香川県、8年度は秋田県、9年度は奈良県と決まっています。10年は中国地区、11年は東部地区です。本日のブロック会議で話し合われ、候補地が出されれば大変に有り難い。ご協力を願います。
- 平成6年度下半期賛助会員の申込みについて
賛助会員の方々のご協力によりまして、百万円弱の賛助金を頂くことができました。詳細は会報31号25ページをご覧ください。
[浅田会長] 今回の賛助会員は約90名です。ご協力に感謝しています。今度は、平成6年度下半期(63年以前の方々を対象)として、功労者に依頼状を差し上げてご協力を頂く予定です。
- 特別賛助会員: 日本旅行社の海外研修について

のアンケート

特別賛助会員として日本旅行社が協力して下さることになりました。そこで、日本旅行社は体育功労者六百名を対象に、海外旅行アンケート調査を行いました。その結果、最も多い旅行先はヨーロッパ、予算は30-40万円(90%)。ヨーロッパに行く場合の予算が30-40万円(77%)、時期が10月頃との回答を頂きました。そこで、別紙「オリンピック・アテネとサッカー観戦の旅10日間」を計画致しました。先生方のご参加をお願いします。アンケートの詳しい内容は資料6にありますのでご覧下さい。

4. 特別賛助会員: ミリオンKKのアンケート

今迄、学体連に対し大変ご協力下さったミリオンKKです。ミリオンパワーは多くの方々からお買いあげ頂いてきましたし、今後もお買い上げ頂きたい。学体連の方々には引きもありません。まず、役員の方々からご協力を願います。

[浅田会長] 学体連は緊縮財政で運営しています。

そこで、特別賛助会員に日本旅行社とミリオンKKをお願い致しました。特別賛助会員が学体連に協力して頂くだけでなく、役員や会員の方々も協力して頂きたい。今回、功労者の方々には賞状のほかにミリオンパワーを贈呈いたします。

[大畑常務] 日本旅行社ほか数社が、学体連に協力したいと、ご寄付を頂いています。これから、本部は努力して参りますので、先生方もご協力下さい。

[岡野常務] ミリオンKKからは、昨年迄に学体連に対し、多額のご寄付を頂いて参りました。金銭面のほか、功労者の楯やメダル等もそうです。今回は、優良校に賞状、功労者には賞状とミリオンパワーを差し上げます。

5. 学校体育の諸問題について

本部が一番狙っていることは、学校体育は授業を中心にした研究です。体育が発展するためには、指導者がここに目をつける必要があります。時の流れをみると、スポーツや競技が先行し、営業ベースののってしまっている面も見えます。自分の「いのち」をまっとうしていく体力の問題、生涯にわたって運動を楽しむ基礎基本である学校体育の授業の展開の仕方、これが一番基盤になるのではないのでしょうか。これを核にし、県段階と本部が相互に理解し、通じあいながら、全国的に研究を発展させたい。

もう一つは、各県で研修が盛んになったら、ブロックに広げて欲しい。ブロックで県毎に連絡のとれていないところは、パイプを繋ぎ、盛んに活動できるようにして頂きたい。

6. 会報等について

内容については地方の声を盛り込みたい。さらに、学校体育の面からも突っ込んだものにしたいということで、地区(北から南から)だよりを設け、担当者にご協力いただき感謝しております。予算面では年一回発行するのが精一杯です。4万部印刷するのに、百万円以上かかるので、以前のように発行回数を増やすことが出来ません。可能な限り各県やブロックの様子を盛り込みたい。また、情報の交換に役立つ内容にしたい。ご意見のある方は本部迄お知らせ下さい。北から南からは昨年と同じように踏襲したい。

配布の方法ですが、4万部印刷して各都道府県の末端にどれだけ行き届いているのか、実態を知りたく思います。この後のブロック会議で、内容と配布方法についてお話し合いをして頂きたい。

[金井理事: 北海道] 学体連と文部省、学体連と都道府県教育委員会(スポーツ保健体育課)との関係がどうなっているのか。この関係を知っている方々が少なくなっているように思います。幼・小・中・高・特殊学校と、これだけの大きな組織をもって活動している研究団体は、日本学校体育研究連合会を除いて、他にないと思います。このような認識が各県の保健体育課などには薄れつつあるのではないかと危惧を抱いています。文部省は学体連が過去の経緯をえて現在あることを、全国の主管課長会議等でお話しをして頂き、物心の物はともかくとしても、理解を一層深めていただいて、各都道府県の連合会が活動しやすいように、バックアップして頂くように、手続きなり、ご足労をお願い出来ないのでしょうか。

[浅田会長] 文部省と学体連の関係は、認可以外何もないので、財団法人としては独自の活動が出来ます。だから、文部省からは、お金の面で援助を得ていません。毎年行われている全国大会の講師の謝金だけ頂いています。学体連が活動するためには、少なくとも多額のお金が必要です。現実は大変に厳しいが、ご寄付を頂いて活動しているのが現状です。

[大畑常務] 学体連は文部省から大会開催についての指導、大会時の講師や助言者の決定、決算

の監査等いろいろとご指導を受けながら、うまくやっています。県教育委員会と連携がうまくとれていないところは、今後、県も学体連事務局も努力していかなければならないと思っています。

〔浅田会長〕 県当局と学体連事務局との関係がうまくいけば、連絡もスムーズにとれるようになります。また、お金があれば、補助金としてブロックに配布してブロック活動の活性化に役立てたい。本部はお金を集めて助成し、末端で活動しやすくなればと思います。

〔岡野常務〕 体育優良校と功労者の選考にあたって、各都道府県毎に、教育委員会の指導主事の方々と現役の役員の先生方で推薦委員会を組織して決めています。功労者の選考では県と学体連とは連携を深めながらやっています。

7. 次期開催県（香川）の準備状況について

第34回、平成7年度の全国学校体育研究大会は香川県です。第一日目の全体会場は高松市香川県県民ホールです。第二日目の分科会場は資料のとおりで、幼1校、小4校、中3校、高3校、特殊教育1校の12校です。期日は平成7年11月9日（木）・10日（金）です。内容は石川大会とほぼ同じですが、解説者、特別講演、分科会の指導助言者は、今後、文部省の指導をうけながら、学体連

と連絡をとりながら進めていきたい。なお、香川大会に備えて、県から65名の視察員がきています

が、大会や分科会等を見学・視察いたしますので、その時はよろしくご指導下さるようお願いいたします。

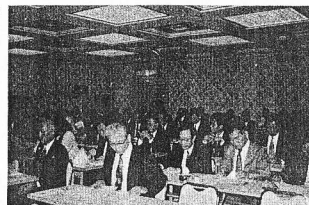
〔浅田会長〕

本部は、この香川大会の要項を印刷し、出来るだけ早くからPRをしたいと思います。次年度の全国大会に多くの先生方が参加できるように、早めにPRをしたい。

以上で、第2回理事・評議員・代表者会議が終了する。続いて、ブロック会議に移り、16:30までに、次の6項目について話し合う。

- ① 補助金の交付方法 ② 新役員の交代の時期
③ 平成7年度以降の全国大会開催県 ④ 会報の内容と配布方法 ⑤ 学校体育の諸問題
⑥ 実技研修会

各ブロックで話し合った結果をまとめると、下の表のとおりです。



第2回理事・評議員・代表者会議

ブロック会議の発表内容

	① 補助金の配布方法	② 新役員の交代の時期	③ 7年度以降の全国大会	④ 会報の内容と配布方法	⑤ 学校体育諸問題組織強化	⑥ 実技研修会・研究大会
北海道 東北	だいたい資料のとおり	ほぼ資料のとおり	平成8年度は秋田県が決定している	各支部に送り各々の学校に配布している	教委との繋がり薄い県もあるが、学校保健会のような組織になればよい	* 各県の機関誌を本部が集め、必要とする県に配布して欲しい
関東	ほぼ資料のとおり	文部省に提出する時期迄に可能な限り努力する	関東が引き受けざるを得ないので、11年は茨城県を考えている	中央の新しい情報を盛り込む。配布は協力するが総会前に欲しい	幼稚園や特殊学校が入会していない県が多いので今後の検討課題	歴史や伝統のある行事があるので、更に充実させていきたい
東海 北陸	補助金は本部が集めて各県に交付金として配布できればよい	努力する	省略する	県教委と学校間の配布ルートを利用し各学校に配布したい	ブロックで話し合う課題は前もって知らせたい	

	① 補助金の配布方法	② 新役員の交代の時期	③ 7年度以降の全国大会	④ 会報の内容と配布方法	⑤ 学校体育諸問題組織強化	⑥ 実技研修会・研究大会
近畿	県1企業2県が頂いている他は各団体の分担金でやっている	早い県、遅い県あり、大体資料のとおり	9年度は奈良県が準備している。その次は京都府にお願いしたい	すべての学校に最低一部は配布している	県教委と学体連はうまくいっている。幼の組織のない県が一部ある	高校は近畿大会を毎年実施している
中国 四国	資料のとおり調査の意図がわからない	出来るだけ協力する	10年は岡山県にお願いする今後、教委や関係者と検討する	各県とも末端まで配布したい	中国四国小学校体育連盟の組織あり年1回大会を実施今年は高知県	
九州	九州大会時には県から補助金を頂いている	特に問題なし5-6月には交代がすすんでいる	13年は九州、11月の熊本大会で福岡、佐賀、宮崎の中から決定予定	各県共末端までいき届いている	教委と学体連は協力体制ができている	各県共に、小中、高、特殊部会別に開催している

* ブロック会議の内容発表者

北海道・東北：根深理事（青森） 関東：梶原理事（千葉） 東海・北陸：小藤理事（石川）
近畿：森口理事（大阪） 中国・四国：野上理事（島根） 九州：森田理事（鹿児島）

基調提案（第33回全国学校体育研究大会）



第33回全国大会
研究部主任 水野郁夫

全国各地より、この石川の地によろこそお集まりくださいました。心より歓迎申し上げます。本研究大会は33回の永きにわたる歴史を持ち、我国の学校体育の研究に多大な功績をあげてまいりました。このような歴史ある大会を石川県において開催する機会を得ることができました、石川県実行委員会並びに県内の学校体育関係者は、研究組織の充実を図りながら、全力を上げ研究に取り組んでまいりました。

昭和62年の教育課程審議会の答申により、平成元年に幼稚園教育要領及び小・中・高等学校の学習指導要領が全面的に改訂されました。今回の教育課程の基準の改訂では、生涯体育・スポーツの観点をより重視し、生涯を通じて、一人一人が自ら進んで運動に親しむこと並びに、体力の向上及心身の健康の増進を図ることが、より一層明確に打ち出されています。この目標は、時代の要請を色濃く反映したものであり、社会の変化に自ら対応できる子どもの育成には、一人一人の心身の発達段階を考慮し、個に応じた学習が求められていると考えます。私達は、

みずのいくお 1946年、石川県生。大阪教育大学卒、大阪市立小学校、金沢市立小学校教諭、石川県教育委員会体育課指導主事を経て、現在、金沢市立浅野川小学校教諭。

以上の、学校体育の新しい役割を果たすことを目指して「一人ひとりが運動の楽しさを味わい、ゆたかな心とすこやかな身体を育てる生涯スポーツをめざした学校体育のあり方」を研究主題として研究に取り組んでまいりました。

本年は、学習指導要領等の新しい教育課程の基準が、全校種において実施される年でもあります。参会の皆様からは「新しい学力観」による研究の成果を、厳しく問われることと考えております。

それでは、進めてまいりました研究の概要について報告させていただきます。

私も実行委員会よりの基調案をもふくめて、二日間にわたるそれぞれの内容が、有機的に結びあい、学校体育が今日的課題としてかかえている諸問題を、参会の皆様と共に考え、話し合うことにより、少しでも解決する足がかりとなれば、これにこした喜びはございません。

学校体育が抱える今日的課題については、本日お集まりの先生方は充分ご承知のことと思います。私

達は、数々の研究実践をする中から課題を模索してまいりましたが、「今、学校体育の研究は岐路に立つ」という思いを強くしております。それは一つには、生涯体育・スポーツを目指すこれからの学校体育が、「生活の内容として自主的・自発的に取り組む学習」であるとともに、「将来にわたって運動に親しみ、運動好きな子どもに育むための学習」であるという両面を合わせ持つことにより、教師は、子どもを、生涯といったこれまで以上に長期的視点に立てて指導していくことが求められていることにあると考えます。二つには、個の能力・適性、興味・関心に応じた指導計画のもと、「一人一人が運動の特性に充分ふれるための学習過程」や「運動の選択制」といった「学習の個別化」に対応できる教師の学習指導の創意・工夫が重要となってきていることにあるといえます。三つ目には、観点別評価基準にも示されているようにこれからの学習内容が、技能重視から、一人一人の学習への興味・関心、意欲、態度といった情意面が重視されることにともなう数値として科学的に表し難い情意面の評価方法の開発・研究が急務とされていることにあります。このように、学校体育の新しい役割と課題は多岐にわたり、解決の道程は険しいものであることが明らかになるにつれ、研究を進める困難さばかりが際立ってまいりました。このような状況にあって、新しい学習指導法の成果が実証されるべき岐路に立つ今だからこそ、研究に取り組む喜びも大きいと考え、各校種がそれぞれに持つ特有の課題にアプローチしてまいりました。

以上、私達の研究の今日の課題の概観をいたしてまいりました。さて、研究主題の追求過程で出てまいりました、さまざまな課題の中から、本大会に参加の皆様と共に考え、ご示唆を願いたい課題を以下の三点に絞って、申し述べていきたいと思ひます。一点目は、「自主的・自発的な学習を促す指導のあり方」について、二点目は「学習に生きる評価のあり方」について、三点目は「選択制授業の現状と課題」についてであります。

一点目の「自主的・自発的な学習を促す指導のあり方」について述べたいと思ひます。

自主的・自発的な学習のために大切と考えていることは、学習の導入段階である、いわゆる「はじめ」の学習活動におけるオリエンテーションの扱いが、実際の授業では早急すぎる場合が多く、一人一人の学習への動機づけや学習の見通しの持ち方が、充分でないまま学習が進むことになります。学習方法や

課題に行きづまり、教師の指示のままに取り組むことになり、一人一人が自主的・自発的に課題を追求、解明していく意欲を停滞させることになると考えます。オリエンテーションとは字のごとく、東へ向くことであります。西洋にとって東の世界を望むことは、未知の新しい夢と想像の世界への誘いであったわけです。オリエンテーションの世界への旅立ちに際して、かれらは新しい世界への見識を深めて、あらゆる困難に対処するすべを身につけていたのです。新しい学習内容は、一人一人の幼児・児童・生徒にとって、まさにオリエンテーションへの旅立ちになるわけです。オリエンテーションの充実を図ることにより、何を学習するのか、どんな方法で学習するのか、自分の果たす役割は何なのか、といった学習の手順と方法を理解して学習を始めることができると考えました。

選択制授業の実施においては、特に、オリエンテーションの成否が、生徒の自主的・自発的な学習の成立に大きく関わると考えました。また、オリエンテーションに入るまでの、生徒一人一人の選択教科や種目の希望調査、その決定、説明会、資料作成等の教師の準備段階も重視してまいりました。

オリエンテーションにおいて、学習の手順と方法をよりわかりやすく理解できるようにするために、チームや個人の学習カードを積極的に取り入れました。内容としましては、チームや個人のねらいやめあて、作戦、活動内容、反省、活動評価等の項目があげられました。また、学習資料は、自主的・自発的な学習をささえる「学び方」のために必要であり、各種目における技のポイントや、その技ができるようになるためのさまざまな必要な動きを示しました。

次に、自主的・自発的な学習を促すためには、「個に応じた学習」が大切といえます。一人一人の幼児・児童・生徒の特性、すなわち、個の能力・適性、興味・関心に配慮しながら、学習のねらいや進め方の違いを認めていく学習の過程が重要であると考えます。幼稚園においては、一人一人の幼児の特性や発達の課題を的確に捉え、どの時期にどのような経験が必要かを見通した上で、指導計画をたてるのが大切となります。指導にあたっては、自発的な遊びとしての活動を見守り、必要な助言や、その場にあった援助をし、遊びの進行に応じて、環境の再構築に心掛けました。小・中・高等学校における一人一人を伸ばす学習過程として、「めあて1」「めあて2」の2段階を持つ学習過程と、「ねらい1」「ねらい2」の2段階を持つものが、学習のモデルとして、一般的に実践されています。私達もこの学習モデルにそっ

た実践をしてまいりましたが、最初から高いレベルの技や作戦がめあてや課題になったり、単調な基本技能のドリルに終始する学習過程は改善され、一人一人の特性を生かす学習が工夫されています。しかし、いわゆる「めあて・ねらい学習」の研究実践のなかで問題となったことは、「今持っている力で運動を楽しむ」というめあて・ねらいの1の学習段階では、一人一人の課題が学習の意欲・関心を高めるものとなりにくいことでした。今持っている力での学習活動は、ともすると活動が単調になり、目的意識の低い活動となりがちです。そこで、めあて・ねらい1の段階の学習では、陸上運動・陸上競技のような単元では、めあて1を競争型、めあて2を達成型の学習と工夫や、また、器械運動では、めあて1を技の組み合わせや技のできればえをめざす学習とする工夫をしました。めあて・ねらい学習の1の段階の持つ「運動そのものを充分楽しむ」といった特性を重視しつつ、形にとらわれず、時間や活動内容が固定的にならないようにして、活動意欲の持続や高まりを図りました。めあて・ねらいの1の段階における、技の「できれば」の評価に対しても、評価の基準を明確にし課題解決の道筋を示すことによって、意欲的な自主的・自発的な学習を促すことができると考え、研究実践してまいりました。

次に、二点目の「学習に生きる評価のあり方」について述べたいと思ひます。

学習評価は、「だれが」「いつ」「なにを」「どのように」評価するのか、というところを明らかにしていきたいと思ひます。まず、教師の評価について考えてみたいと思ひます。教師の側の評価活動である「診断的」「形成的」「総括的」評価については、評価の観点が、一人一人の学習活動が適切に行なわれるよう支援できる評価であること、また、一人一人の学習の結果ではなく、学習の過程における活動を重視した評価であること、そして、指導の結果が自分のつぎの指導にフィードバックできるものであることが大切といえます。従前のような、評定に結びつけるのみの評価活動から、一人一人に応じる視点を大切にした教師の評価活動が不可欠であると考え、教師評価表の工夫をしてまいりました。評価の観点項目といたしましては、一人一人の「興味・関心」「態度」「課題の持ち方」「学習の工夫」「技能の高まり」「資料の活用」「器具用具の活用」「場の工夫」等が中心とされました。毎時間すべての子どもについて、すべての観点での評価はとうてい不可能であり、単元全体を見通した計画的な評価が求められま

す。毎時間における、このような教師の評価活動のより重要な価値は、教師による評価内容が、子どもたちの学習活動にフィードバックされ、次時の活動がよりよいものとなる意識づけとして活用されることです。学習の過程における、教師の評価に基づいた、「称賛」「認知」「アドバイス」等のような支援が、自ら能動的に可能性を切り開いていく学習を保障すると考えます。

学習評価は、教師のがわのものという考えから、運動の楽しみ方や運動する楽しさ体験を追求する、主体としての一人一人の児童生徒へと、重心は大きく移りかわっております。次に、学習の主体としての子どもの自己評価活動に対する考えを報告したいと思います。体育科及び保健体育科のねらいとする、「生涯にわたって運動を実践し、健康で安全な生活を営むことができる能力や態度の基礎を育てる」ために、児童生徒の自己評価能力が重要な能力になるととらえています。

ここで、自己評価における観点を、次の4点として具体的に示しておきたいと思ひます。まず、楽しさの観点です。評価項目としては、運動することそのものが楽しかったか、全力で運動に取り組めたか等にあたります。二つ目は、学び方の観点です。自己の適性な課題を持つことができたか、自己に適切な練習の工夫ができたか、資料の活用はできたか等が、評価項目になります。三つ目は、社会的行動目標です。仲間と教え合い、助け合って学習できたか、学習の準備や後始末ができたか等です。四つめは学習成果です。運動の伸びがあったか、新しい発見があったか等にあたります。

このように、自己評価活動における評価の観点が「学習課題」「学習方法」「学習成果」といった学習の目標に大きく関わることにより、自己評価活動自体が、学習目標達成のための重要な活動となってきています。自己評価という曖昧さは残るにしても、学習の記録として「学習カード」に盛り込まれ、計画的・継続的に進められることが、自己評価能力を高めると考えます。

心身に障害のある、児童生徒の指導においては、それぞれの障害に対する訓練的指導と、障害の程度に応じて教材を工夫し、用具や場を工夫し、音楽などを生かす工夫をした学習指導があります。学習指導はもちろんのこと、訓練的指導においても、一人一人の障害に応じた自己評価活動が大切であると考えます。できたと思う意思を挙手や動作で示したり、運動を繰り返した回数だけ、ボールを箱に入れるこ

とも自己評価活動にあたりと考えます。

以上、述べてきました教師評価・自己評価は、選択制の授業においては、より一層大切になります。選択制の授業が、自ら学習の内容・方法を選択し実践していくという自己教育力を重視する点において、教師の支援、学習資料と自己評価は欠くことのできない要素となるからです。

最後に、「選択制授業の現状と問題」について述べたいと思います。

まず、選択制授業に関する研究についてお話しする前に、本県における中・高等学校の選択制の実施状況について述べておきたいと思います。本県の高등학교の選択制の実施状況は96%とほぼ実施されているといえます。しかし、中学校における実施状況は、100%実施の郡市から9校のうち1校の実施に留まる郡市まで、地域による偏りがたいへん大きくなっております。選択制授業の実施には、現状のままでなかなか計画実施できない課題をかかえる学校があることを示しています。そのことから波及する問題も考慮していかなければなりません。たとえば、6学級以下の中学校で、専科教員の配置の関係で実施できにくいとすると、進学先の高校では、選択制の実施においては、生徒の学習経験の差を配慮した授業の工夫を考えることが求められてまいります。すでに、今の高校在学学生はそのようなレディネスの相違を担っていることが考えられるわけであり、早急に、中・高等学校における100%実施が期待される状況です。選択制は中・高等学校を通した、6年間でのまとまりとして考えることが現実的であり、中学校での学習が、高等学校での学習に大いに生きて、より成果をあげるものと考えます。

次に、選択制授業に対する、教師と生徒の意識調査の結果から現状を把握しておきたい思います。教師の不安と生徒の意欲が対称的に表れ、そのギャップが興味深いところです。教師の不安としては、基礎的技能の習得が図れない、全員に充分目が行き届かなく安全面で不安、教師が何をいつどのように指導すればよいかわからない等、共感を覚えるものもあるようです。生徒の意欲的意識としては、積極的に取り組めるようになった、学習の意欲が高まった、授業が活発になった、技術が高まった等指導者として常に望んでいることばかりあがっています。

私達は、選択制授業について研究を進めるとき、実施状況における、実施できない問題点や、教師や生徒の意識の差に、充分注意を払っていく必要を感じています。選択制が「本物」になるため、すなわ

ち、学習の形態としてその有効性が認められるためには、今述べてきた状況や教師の意識が、重要なポイントだと考えるからです。

さて、時間も迫りましたので、選択制授業の研究内容の報告をさせていただきます。生徒のプラス志向の意識は、生徒が自ら運動を選択し、それを実践するだけではでてまいりません。「なにを、どのように学習するのか」は、すなわち「なにを、どのように学習させるのか」である訳です。「選ぶ」という主体的行為は、生徒一人一人のより自主的・自発的な運動の取り組みを引き出そうとすることにあります。しかし、その学習活動の前提には、常に教師の綿密な計画と準備が必要です。教師の不安に対する答えのすべてが、教師の指導計画における創意と工夫にかかっているといえます。

選択制授業の実施にあたり、研究推進の視点としてきましたことを述べたいと思いますが、いままでの報告の中で、説明してきましたことと重複すること多いと思われるので、項目のみ述べたいと思います。

一つには、「校内保健体育科教員の意思の統一を図る」こと、また、「生徒のニーズやレディネスといった実態把握に努める」こと「実施にあたってのオリエンテーションを充実する」こと「学習資料を豊富に準備する」こと「教師評価、自己評価のためのカードを工夫する」こと等です。

選択制の授業への取り組みは、生徒の意欲や関心の高さに、教師が励まされ、生徒の進む活動の後を教師が追い掛けている状況のようでもあります。

以上、述べてまいりました内容は、今日の学校体育が抱える課題の、ほんの一端といえます。それ程課題は多様であり、私たち学校体育を研究するものにとりましては、その歩みは困難を究めます。しかし、私達は、オリックススウェーブのイチロー選手のように、変則フォームをひっさげて、かつ、一途に研究熱心でスポーツを楽しんでいるふうな、個性的な人間に大なる魅力を感じます。個性的な人間を育てるのも教育の力であることすれば、私達の進む道は間違っていないと確信いたします。

最後になりましたが、参会の先生方にとって、第33回石川大会が実り多い研究大会になることを願って止みません。また、本研究大会が、今後の学校体育のより一層の発展につながることを祈念いたしまして基調提案とさせていただきます。

ご静聴ありがとうございました。

— 分科会会場 参観記 —

第1分科会 <常務理事 内藤 澄子>

松任市立東幼稚園 園長 関川香代子

十分に体を動かし楽しく遊べる環境と援助のあり方
松任市内には、西幼、東幼と公立園は2園である。第33回研究大会を機に両園とも第一分科会において特色のある研究提案がされた。公開保育をされた、東幼稚園は、昭和31年4月開園。昭和50年4月3年保育実施。公立園に3歳児学級が編成されていることは幼児教育振興の時宜を得ている。

分科会当日は強雨という悪天候にもめげず研究の成果の展開であったように思う。浅田隆夫会長の車に同行し、金沢市立高岡中学校と二つの分科会を参観する。中学校の記録は石塚英二先生が執筆する。

公開保育について

3歳児 うさぎ組 19名 りす組 16名

ねらい。好きな遊びや場所を見つけ、保育者や友達と元気いっぱい遊ぶ。

主に保育室で、体操、お店やさん、お家ごっこと静の遊びが展開され、自作のダンボールの電車や船、トラックの中に入ったり、かくれたりする“くぐる、はう”の動きが廊下まで活用し生き生きと活動する。

4歳児 ひまわり組 18名

ねらい。友達と一緒に遊びを楽しみ、元気いっぱい繰り返しやってみようという気持を持つ。

遊戯室で5歳児と一緒に交流しながら遊びをする。

5歳児 つばめ組 18名 ひばり組 18名

ねらい。友達と一緒に思いきり体を動かして遊ぶ、楽しさを味わう。

雨天のため、主に遊戯室で“忍者屋敷で遊ぶ”3、4、5歳が交流しながら“修業ごっこ”の展開。

○ジャンプボールの修行

天井からぶら下っているボールにタッチする活動である。高低があり、走ってきてジャンプする子、ボールの下で垂直にジャンプする子等、能力に応じて高さに挑戦していた。タッチできた時のボールのゆれに満足感いっぱいであった。

○はしご渡りの修行

室内の中心に巧技台のはしご、マットを組み合わ

て渡る、くぐる、ぶら下るの活動が繰り返され更に巧技台を高く組み、はしごを斜めにし、はしごを下りたり、立って渡るなど活発に遊んでいた。



第1分科会

○くぐりの修行——くもの巣どおり——

伸縮自由のゴムでネットを作りひっかからないように床に腹ばいになったり、くぐったりして工夫しながら遊んでいた。

他の遊びに。跳び箱の修業 ○つな渡りの修行等。一人一人が遊びながら思った事を話したり、考えたりに遊びを進める楽しさを味わっていた。“術”を体を曲げたり、手足を曲げ伸ばしたりと年齢相応に繰り返し遊ぶ姿は、しなやかでありたくましかった。

第2・6分科会 <理事長 岡野伊与次>

第2分科会 野々市町立富陽小学校 校長田中宏明
研究主題「めあてを持ち楽しさや喜びを味わう体育学習」をモットーに研究を進めている。

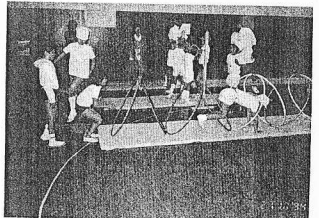
児童数662名、教師33名の中規模校で、これまで、生き生きと活動する子どもの育成をめざし、一人ひとりの児童が自己表現力を高められるように研究に取り組んでいる。

あいにく夜来の雨のため、業間運動としては富陽タイムは参観できなかったが、校庭や校舎を拝見して、指導方針がよく耕されているように推察できた。

この学校の環境は、田園風景の中にあり、実に落ち着いた学校であった。

研究参加者は、230名。公開授業は4学級であったが、時間の関係で2学級だけ参観した。

2年では、「マット遊び—逆さ感覚を中心



第2分科会

として」をテーマとしての授業であった。宇宙飛行士のトレーニングのイメージを想定し、子ども達にいろいろな動きづくりをさせていた。教材教具の開発から考えて、種々の器材を活用した授業の展開は、たいへん参考になった。4年では、ゲーム「ダブルリングバスケットボール」で、名称に示す如く、リングが二つあり、下のリングは大きくて低い位置で

シュートすれば容易に得点できる設定である。この工夫は、児童の運動に対する興味・関心がいやでも高まるものと思われた。通常のバスケットボールのリングの下にフラフープを吊るし、ゴールリングを大きくしたことであった。投げの力の弱い子や、コントロールの苦手な子でも得点する喜びを味わうことができるものと思った。

第3・4・5分科会 <常務理事 石黒 健>

第3分科会 金沢市立木曳野小学校 校長清水正明

研究主題「ふれあい、感動のある体育学習」のもと、「協力し合い、励まし合い、がんばりぬく子をめざして」を副主題に研究を進めている。

児童数938名、教職員数40名、金沢市で第二の大規模校である。近年道路整備が進み交通の便にも恵まれているため、住宅地が増加してきているが、まだまだ田園や畑地が多くみられ、自然にも恵まれた環境下にある学校である。

研究参加者は、374名。公開授業は5学級であったが、時間の都合で2学級だけ参観した。

6年の跳び箱運動では、課題に挑戦する段階の3時目であり、技別グループに分かれ、互いのめあてを確認してから練習に取り組んでいた。ステップカードが効果的に利用されており、学習カードも上手に活用していた。



第3分科会

4年のゲーム「ジャンボリングバスケットボール」では、リングの広さを通常のものよりひとまわり大きくするとともにゴールの高さを低くすることによりシュートを入れやすく工夫していた。また、トライアングルコート・サイドラインコートとコートの工夫もされ、児童は楽しくゲームに参加していた。

第4分科会 金沢市立安原小学校 校長泉 信次

研究主題「すすんで取り組み、みがき合う子の育成」のもと「めあてを持ち、粘り強く体力づくりに取り組む子を求めて」を副主題に研究を進めている。

児童数382名、教職員19名の本校は、平成4年度に文部省の体力づくり推進校に指定されたのを機に、

育友会の協力を

得て購入したロー

ラスケート、

一輪車、竹馬、

缶ボックリ等を

ピロティや運動

場に常設すると

ともに、「だる

まさんが転んだ」

ケンパなど昔ながらの遊びも体験できるように整備

が行われていた。

時間の制約もあり、6年の跳び箱運動の学習のみ

参観したが、学習カードを使うことで一人一人のめ

あてを明確にさせ、児童相互がペアを組むことにより

教え合いの姿がみられ、児童の運動に対する興味・

関心の深まりがみられた。

昼食時、地元特産のメロンと暖かな豚汁がふるま

われ、参加者一同冷えた体もあたたまり感謝の念を

深くした一時であった。

第5分科会 津幡町立中条小学校 校長飯田世三

研究主題「生き生きと活動する子どもをめざして」のもと「一人一人がよりよい動きを求めて高めあう体育学習」を副主題に研究を進めている。

児童数814名、教職員数39名の学校である。

本校は金沢市に隣接し、加賀・能登・越中を結ぶ分岐点に位置する交通の要地であり、最近宅地化が進行しているところである。

前出の第3・

第4分科会同様

かけ足参観になっ

たのであるが、

模倣の運動「海

のたんけん」に

おいて、2年児



第4分科会

育友会の協力を得て購入したローラスケート、一輪車、竹馬、缶ボックリ等をピロティや運動場に常設するとともに、「だるまさんが転んだ」ケンパなど昔ながらの遊びも体験できるように整備が行われていた。

時間の制約もあり、6年の跳び箱運動の学習のみ参観したが、学習カードを使うことで一人一人のめあてを明確にさせ、児童相互がペアを組むことにより教え合いの姿がみられ、児童の運動に対する興味・関心の深まりがみられた。

昼食時、地元特産のメロンと暖かな豚汁がふるまわれ、参加者一同冷えた体もあたたまり感謝の念を深くした一時であった。

第5分科会 津幡町立中条小学校 校長飯田世三

研究主題「生き生きと活動する子どもをめざして」のもと「一人一人がよりよい動きを求めて高めあう体育学習」を副主題に研究を進めている。

児童数814名、教職員数39名の学校である。

本校は金沢市に隣接し、加賀・能登・越中を結ぶ分岐点に位置する交通の要地であり、最近宅地化が進行しているところである。

前出の第3・第4分科会同様かけ足参観になったのであるが、模倣の運動「海のたんけん」において、2年児

シュートすれば容易に得点できる設定である。この工夫は、児童の運動に対する興味・関心がいやでも高まるものと思われた。通常のバスケットボールのリングの下にフラフープを吊るし、ゴールリングを大きくしたことであった。投げの力の弱い子や、コントロールの苦手な子でも得点する喜びを味わうことができるものと思った。

のすばらしい動きに出会うことができた。まず、一学期に「まねっこどうぶつえん」を経験したあと、学校行事で能登島臨海公園と柴垣海岸へのバス旅行を体験している40名の児童は、猛暑の夏休みを過ごしてきたためか、「泳ぐ」「歩く」「はう」「ただよ」「ゆれる」などの動きをまねて楽しんでいた。ま

た、速さ・方向・リズムを変えたり、群れになって動いたりして楽しんでいた。とかく表現運動に関心・意欲を示さない児童が少なからずいる状況を見る時、本校の実践は他校にぜひそれこそ模倣してもらいたい一つの実践であると考えられた。

第6分科会 <理事長 岡野伊与次>

松任市笠間中学校 校長 大野 均

研究主題「一人ひとりのやる気と活力を育てる体育指導」を掲げ、体育科は勿論のこと、全教科をあげて生徒指導に取り組んでいる。生徒数527名、14学級の中規模校である。学校を取り巻く環境は準農村地帯で周囲は田畑が広がっていて、都会とは異なり、たいへん環境のよい学校である。

生徒指導に力を入れているせいか、生徒達の態度が真面目で明朗な様子がみられる。特に礼儀正しく、参観者の方々に会う度に、明るい笑顔で挨拶する生徒が多いのには感心させられた。聞く所によれば、家庭環境が3代に亘る家族構成での同居の生徒が多いとのことである。従って、家庭での生活様式がたいへん厳しく躾けられているものと思われる。

授業は、3年生4・5組の男・女で、領域選択は武道とダンスである。時間の関係で、武道（柔道）男女共習の授業を参観した。

生徒の選択の理由を聞いて見ると、①ダンスと比べると柔道の方が興味があるから。②相手を投げることができると気持ちがいいから。③いろんな技を覚えて試してみたい。ということであった。

女子の生徒の練習を見たが、熱心に技の稽古に余念がない様子であった。



第6分科会

第7分科会 <都中体研総務部副部長 石塚 雄一>

金沢私立高岡中学校 校長 金森靖幸

朝から天気が崩れ、雨の降りしき中、高岡中学校の正門をくぐった。大きな校舎の悠然と構えるこの中学校は、全国で2番目の大規模校である。20年前、そこは学校ではなく競馬場であったということを知ると、グラウンド見たさに気ははやる。この日が雨でなかったら、と考えると、高岡中の先生の心残りはたいそうなものだったであろう。

正門より校舎に入ると、芝に覆われた中庭に出るが、都心の学校の校庭の大きさと変わらない。校庭はというと、まず驚くべきことは、青いウレタン走路が幅120cmの直線80mで4コースあり、さらに赤いウレタン走路が校庭の外周に添って、幅2m、長さ410mに及ぶ。その内側は、国立競技場よりも大きなフィールド。野球、サッカーは十二分に楽しめる。さらにもう一つ、これよりひと回り小さなグラウンドがある。ナイター設備も完備され、夢をみているようだった。

石川県は雪の多い地方として有名である。従って屋内の運動施設も充実している。施設設備に関することばかりで恐縮しているが、特筆すべきことばかりなので、あえてもう少し紙面を割かせていただきたい。

この日は雨で、すべての授業が体育館で行なわれた。体育館は第1と第2があり、他に柔道場と剣道場がそれぞれ独立している。その上、卓球などのスペースが10台分はある。バドミントンコートなら9面できる第1体育館では、サッカーの授業が行われたが生徒数41人でも全く狭さは感じられない。

2校時目は厚生中学校の生徒による器械運動の授業であった。跳び箱などでは助走距離が十分にとれ、スピード、スリルが感じられた。

バドミントンコート6面とれる第2体育館では、バスケットボールのゲーム中心の授業が行なわれたが、生徒達の声が響きわたる、運動量豊富な授業展開であった。2校時目の大徳中学校の生徒によるダンスの授業では、テレビ、ビデオカメラ、タンバリ

ンやアイデアボードを4つのグループそれぞれが利用するという形態で、新鮮さと躍動感あふれる生徒の姿をみる事ができた。

どの授業にも生徒の立場を十分に配慮した計画と実践があり、「1人1人が、運動の楽しさを味わい豊かな心と健やかな身体を育てる生涯スポーツをめざした学校体育のあり方」「自らが運動の楽しさと喜びを求め、主体的・意欲的に取り組む体育学習」という2つの研究主題を実現し得るものである。何よりも生徒が伸び伸びとして、自ら学習に取り組む姿勢と、伝わる指導者の熱意が素晴らしかった。

研究発表会では、陸上競技、バスケットボールの指導法の様々な工夫が具体的にのべられ、教師達の

熱心な教育態度や一方、指導の難しさへの悩みにも直接触れられ、充実していた。とりわけ、評価の観点や実際の評価活動には頭を痛めているようで、その工夫、改善のため東奔西走する様子は全国共通項といわざるを得ない。

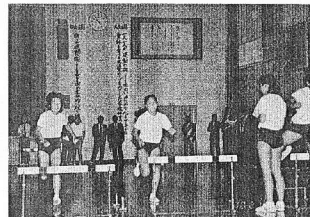
分科会の主題である「自ら課題をもち、仲間とともに自主的・意欲的に取り組むグループ学習」にも評価はかならず関係する。しかし、指導者の援助が生徒の自己評価活動に反映すればそれ倍良いのではないだろうか。

細かいことで悩むより、この大変恵まれた学習環境のもと、数多くの生徒が生き生きと身体を動かし伸び伸びと育っている事実を認め、大切にしたい。

第8・第12分科会 <常務理事 神田 俊郎>

第8分科会 金沢市立北鳴中学校 校長 福島 忠

本校は昭和63年大規模校解消のため金沢市の兼六公園から北東部の豊かな田園地帯に創立した学校である。新設7年目、学級数(18)生徒数(671名)教員数(39名)で構成され、特色として生徒の豊かな創造性を生かす学校教育の推進に努め、代表的な活動として輝かしいノーベル授賞者との語らい、ノーベルフォーラム、石川国体集団演技参加、金沢市指定研究発表校、国際交流校として中国・蘇州第十中学校との相互訪問、地域の老人施設訪問・募金運動等のボランティア活動があげられ、主体的な生徒育成や活力ある校風づくりに励んできた。自分の力を高めようと心がけている生徒や感受性豊かな生徒が多いが、学習面や生活面



第 8 分科会

にはやり抜く気

力や集中力、苦しさに耐える力が望まれる等が教育課題である。研究主題「自ら進んで学習に取り組む、生徒の育成」を掲げ、教師集団が「新しい学力観に立った学習指導」の実現へ研究の視点をおいたところが特筆される。新しい学力観、生涯体育、スポーツの基礎、個に応じた指導。選択制の授業の意義と進め方、男女共習等の原理をしっかりおさえて、授業の在り方を研究して行こうとの意欲が感じることができた。公開授業、第1校時、選択：陸上競技(3年5・6組)荒井、井上教諭(北鳴中)。第2校時、選択：バレーボール、2年、大野教諭(森本中)。選択：武道(柔道)3年中村教諭(浅野川中)と、他校から移動しての公開授業は、生徒も指導者も平常の環境と違って、活動しにくかったのではないかとと思われるが、それを感じさせない落ち着いた秩序正しい授業の展開であった。

どの授業とも、生徒が意欲的にきびきびと活動して、研究の成果を教師と共に確かめ合っていると言った場面に接することもでき、今後の更なる発展を願う学校をあとに次第である。

第9分科会 <常務理事 松田 智男>

石川県河北郡内灘中学校 校長 田中仁志

本校は教職員45名、生徒数1,017名、学級数27の県下7番目の大規模校です。体育施設は野球場、体育館、プール、格技場のほか、隣接している町営の体育館武道場、総合運動場、テニスコート4面など

大変恵まれた環境にあります。そのため、体育の授業だけでなく、部活動も非常に活発で、水泳、相撲、女子のソフトや弓道は県や地区大会で入賞している生徒が多くいます。

「生徒自らが選び、主体的に運動に取り組む体育学習」を研究主題に、①陸上競技。②サッカー・ソ

フトボールの公開授業が行われました。①を参観したので報告します。

3年男子による「陸上競技の種目内選択授業」で短距離とリレー、長距離、障害走、走幅跳、走高跳の中から、生徒が好きな種目を選び一種目に6～10名が参加した授業でした。あいにくの雨天で、館内のフロアでの授業となりました。各種目の人数は最高10名で、試技数が多いので運動量は充分でした。安全面でも短距離走のゴールの壁にマットをかけたリ、走幅跳で踏切板やマットが動くと、すぐに戻すなど充分に注意して活動していました。豊富な運動量、ハイレベルの活動、安全面の配慮、狭いフロアの活用、指導者のアドバイス等が目につきました。

授業後、生徒の充足した笑顔を見て、いい授業だったと思います。

このような選択制授業はスポーツに親しませる有効な方法の一つです。田中校長先生は「現在、選択制授業は保健体育科だけであるが、この機会に他の教科に発展させていきたい」と言われました。内灘中の今後のご活躍を期待しています。



第 9 分科会

第10分科会 <常務理事 松田 智男>

石川県野々市市明倫高等学校 校長 田村昌俊

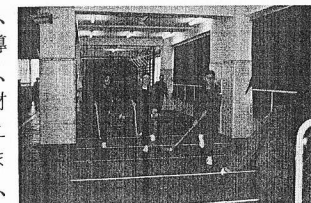
本校は昭和58年4月に開校した比較的新しい学校です。教職員73名、生徒数1,215名、30学級の大規模校です。運動場の広さ千坪、第1体育館と2階建の第2体育館と体育の施設・設備に恵まれた学校です。大多数の生徒は進学しています。部活動では、野球、陸上、ソフト、水泳、空手、弓道。男子バレー、女子の卓球、テニス、バドミントン等は地区大会や全国大会に出場して活躍しています。

「生涯体育に結びつく選択制授業をめざす中で、自ら進んで取り組む体力づくりをどうとらえるか」を研究主題に、①一斉授業(サッカー、柔道、バドミントン、器械運動)。②選択授業の公開授業が行われました。②を参観したので報告します。

選択授業は3年生4クラスを展開し4名の指導者によって行いました。フレッシュテニス、サッカー、卓球、バドミントン、バレー、ニュースポーツ(フロアホッケーとグランドゴルフ)の種目を綿密な指

導計画のもとに、生徒に取り組ませていました。あいにくの雨天で、施設に制約ができたが、生徒は夢中で活動していました。今回の発表ではニュースポーツであるホッケーやゴルフ、フレッシュテニスが目につきました。

選択制授業は学校内の協力と指導者間の理解、施設・設備の現状、そして年間指導計画にもしりこみ、新種目では教材研修などを考える必要があります。本授業では、生徒が生き生きと運動に取り組んでおり、指導者のアドバイスも目につきました。新種目の導入では予算面が心配であるとの声を耳にしました。スポーツを親しませる選択制授業は定着しつつあるように感じました。



第 10 分科会

第11分科会 <常務理事 金森 久>

石川県立金沢泉丘高等学校 校長 小西 優

昨年、創立百周年を迎えた伝統をもつ進学校である。各学年普通科9学級、理数科1学級の大規模校であり、すばらしい近代的な校舎に恵まれている。特に、保健体育施設は、第1・第2体育館、剣道場、柔道場、卓球場、トレーニング場、約29,000㎡のグラウンドを有し、さらに、独立した保健教室がある。

研究主題「生涯を通じて自主的に運動を楽しむ選択制授業をめざして」。当日、あいにくの雨天のため、公開授業は雨天時の学習指導案により室内で展開された。最初の陸上競技の授業は、第1学年2学級合併、男子42名、女子40名が短距離走、障害走、走幅跳・三段跳・走高跳、砲丸投、ソフトボール投、長距離走、リレー競走の種目から各自得意種目を選択し学習活動を行った。室内施設を適切、有効に活

用した授業は、創意工夫された学習内容、指導法など参考になることが多く、6名の指導者の研修成果に敬意を表したい。陸上競技の運動の特性、各種目の技能指導のポイントをおさえた室内における学習内容や用具の開発、既存用具の活用などは、さらに

第12分科会 <常務理事 神田 俊郎>

石川県立金沢桜丘高等学校 校長 畑野 慎

本校は大正10年に石川県立金沢第三中学校として創設され昭和24年に現在の校名に改称され、世に多くの人材を輩出してきた伝統校である。生徒数1,225名の全日制普通科高校で「質実剛健」を校訓としてかけ、「文武両道」を指導の重点として勉学やスポーツに多くの生徒が励んでいる。城下町として知られる金沢市の北部に位置し、緑に囲まれた静かな環境にあり、桜丘の名の通り、校地内には800本の桜の樹があり、登校坂の桜のトンネルをはじめ、校地内の桜が満開時は壮観そのものとのことである。

本校では豊かな人材育成のため校地内の林の下草刈りや学校附近の道路、公園の清掃などのボランティア活動、さらに気力、体力の充実のためにユニークな行事として毎年「3 S歩行」を実施している。

3 Sとは Simpathy Spirit Sele-control を目的とし、全校生徒を対象に43kmの歩行を実施している。これは速さを競うものでなく、自己体力、精神力を磨くとともに自分を見つめ直し他人に対する思いやりの心を持たせることを主眼とした行事である。

第13分科会 <常務理事 金森 久>

石川県立津幡高等学校 校長 南谷直彦

昨年、創立70周年を迎えた伝統校である。昭和61年より普通科に体育コースを設置し、体育の学習指導に研鑽を重ねてきた。平成4年には、園芸科、普通科に加えて、「将来、体育指導者を目指し、実技・学力共に兼ね備えた人材を育成する」の目標を掲げ、学校活性化の核となるようにと、体育コースを体育科に発展変更した。

研究主題「個々の能力を引き出し、楽しさと意欲を育成する男女共習授業をめざして——生涯体育をめざして——」。諸般の事情により、隣接の津幡町総合体育館において公開授業が行われた。体育科の

今後の課題となるだろう。次の授業は、雨天時のため、男女ソフトボールをバスケットボールに、サッカーをミニサッカーに、テニスを卓球に種目を変更して、それぞれゲームを中心に行われた。

また、寒い古を実施、男子は柔道・剣道、女子はエアロビクスを実施し心身を鍛練している。研究主題「自らの課題を持ち、意欲的に学習に取り組む、能力向上をめざして」体育科授業の中で、研究追求の領域として、武道を中心におき、課題解決に迫ろうと試みている



第 12 分 科 会

ところに特色がある。公開授業第2校時(柔道)1年男子18名、女子10名、(男女共習)。指導 徳田伸一教諭。第3校時(剣道)2年生男子14名。指導 居村記教諭。時間の都合で主に柔道(男女共習)の参観であったが、修練を積んだ女子生徒の動きは俊敏で、男子生徒に見劣ることなく、緊張感にあふれた授業で感動さえ覚えた。清純な高校生のひたむきな授業態度に、研究の成果を感じることができ、研究協議会の成果と、学校の今後の発展を祈念し、学校を後にした次第である。

第2学年男女生徒が数グループにわかれて、小作品の発表にむけ、男女の良さを生かしながらダンスを共習した。体育科の教育課程では「専門体育」4単位が各学年に配当され、公開授業は柔道、剣道、バスケットボールの3種目を選択させ、男女共習で行われた。多くの生徒が所属部活動と同種目の授業を選ぶことにより、実技面だけでなく、理論的にもしっかり学習し、より高い競技能力・態度を修得できるようにする学習内容であった。各種目の授業における男女共習が効果的に行われていることを見学し、部活動と関連させた体育学習のあり方など体育科以外の生徒の学習課題として取り組んではと思った。

第14分科会 <常務理事 大畑 重喜>

「やれば出来る」教育の偉大さを思い知らされたのは40有余年教育に携わって、初めての経験である。山口校長先生を中心に、先生方が打って一丸となり、体育の先生は勿論、児童・生徒の障害の程度に応じて先生が、一人、一人の子供さんに適切なサポートをし、その子供さんはそのサポートに敏感に反応、体の動きも、付け焼刃でなく、実に伸び伸びと最大から最小・早く遅くリズムに乗って、一人で(個人)なくグループに統制され、出演者全体が、見事に運動のハーモニーになっていく。

私も、豊学校で40余年、聴覚に障害をもった子供さんの教育に携わりましたが、これほどの努力と訓練をみたことはありません。一夜漬ければ、必ずボロが出るものです。体育ならずとも、どんな教科でも、教育の専門家ならコテさきで(指導テクニク)流した授業は見破ることができるものです。

第33回全国学校体育研究大会(石川大会)を終えて



石川県実行委員会
会長 小 藤 典 行

第33回全国学校体育研究大会石川大会は、平成6年度10月20・21の両日、金沢市とその近隣の松任市、野々市町、津幡町、内灘町において行われました。

石川県では、平成4年から準備にとりかかりましたが、大きな心配が三点ありました。

その一つは、大会当日の天候です。実行委員会では、北陸の雨の多い寒い日避けるために、例年の大会より早く、暖かい日を期待して10月に設定しました。ところが、大会当日は朝から雨が降り始め、二日目の分科会では、授業者の祈りも空しく雨は止まず小学校の運動場における授業が、できない会場もありました。子ども達全員が「先生、雨の中でやろう」という声を聞きながら、外での授業を断念しました。次の、心配は、幼稚園、小、中、高の学校が、研究内容において、どれだけ高めることができるのか、また、会長として、一つの主題にまとめる力があるのかを問われることであった。

各校種の代表者を重ね、「児童生徒が、体育、スポーツに親しみ健康で豊かな生活ができるように運動の楽しさを知る授業」をしなければならないことを共通理解しました。この趣旨に沿い、中、高の

先生も必死、指導を受ける子供さんも必死、見学者もこの盛り上がった雰囲気の中に吸い込まれ、いつとはなしに目頭が熱くなってゆく。

金沢大学付属養護学校の子供さん、ご父兄、先生方本当に御苦労さまでした。あれだけのリズム運動・物語演技が完璧に完成させたのです。

「やれば出来る」という、教育の成果を見せていただきました。分科会毎の見学しかできないので、この分科会に参加した者しかこの教育的感激を感じることが出来なかったのが残念です。

特殊教育は、一般の教育とは枠外のように思っている先生方も多いことと思いますが、個々の生徒を大事にし、個々の生徒に応じた教育に徹している特殊教育を一般の先生方が見学なさって、指導の参考になさってはいかがでしょうか。

最後に、改めて金沢大学付属養護学校の各位に御礼を申し上げて稿をおかさせていただきます。

こぶじのりゆき 1938年石川県生。金沢公立小学校に教諭として23年間勤務の後石川県教育委員会体育課指導主事を経て、現在金沢市立浅野川小学校長。石川県学校体育研究会会長。第33回全国学校体育研究大会石川県実行委員会会長。

学校では、選択制授業における疑問点を解決するために、講習会や事例発表会を開催して内容を吟味しなければなりません。

第33回の石川大会では、石川の研究の内容を全国の先生方に理解していただいてから、授業を参観することに決めました。研究部では、水野主任が中心となり、基調提案という形で発表しました。文部省の池田調査官の御支援もあって、全体会の中で理解されたようでした。時間的に、苦しい日程にはなったけれど、この提案は、今後の大会でもあった方がよいと思いました。

最後に頭を悩ませたのは、大会の参加者数です。本県は、日本列島のまん中に位置しているが、交通の便もよいとは言えず、魅力を感じて来ていただける先生が少ないような気がします。

せっかく、準備を整えてきたのに、参加者が少ないと活気に乏しく、財政面でも大変です。大会の運営費は、参加者の負担にあるわけですから、予算を不確かな参加数をもとに、たてなければならないことでした。その上に、各分科会場では大切な先生方を迎えるために、「およその数を知りたい」と言っ

てくるが、見当がつかない。適当に100名～200名の範囲で計画するように指示をしてみました。我ながら、いいかげんな気がしていた。

案の定、会場によっては、100名に達しない会場や300名を超える学校があり、計算ちがいを思い知らされました。ただ、参加数は2,000名を上まわったので全体的には成功であったと思っています。

大会は、大きな三つの心配とは別に、多くの係員

の力によって、計画通り進行していきました。実行委員の若い先生方や中堅のリーダー格の先生方の献身的な努力に心から敬意を表します。

最後になりましたが、文部省をはじめ、日本学校体育研究連合会、石川県、石川県教育委員会、金沢市教育委員会、松任市、野々市町、津幡町、内灘町各教育委員会の多大な御支援と御指導を賜りましたことに厚く感謝を申し上げます。

次期開催の香川県から



香川県準備委員会
会長 益田 勉

第34回全国学校体育研究大会が平成7年度香川県で開催されるに当たり、御挨拶申し上げます。

まずは、第33回大会が石川県で開催され、多数の参加者を得て盛大に行われましたことに、心から敬意を表します。

第34回大会に向けてのこれまでの本県の取り組みの経過を申し上げます。

まず、平成4年末から5年初めにかけて、中国・四国ブロック内で調整を行い、諸般の事情から香川県が引き受けざるを得ないと考えました。そこで、県教委とも相談し、県学校体育会内部及び関係団体との協議を経て、平成5年3月末に日本学校体育研究連合会に開催承諾の旨通知いたしました。

本県の学校体育会は小体連・中体連・高体連の3団体で構成しているため、幼稚園や特殊教育諸学校の関係者に準備組織に加入していただかねばなりません。平成5年度は、そうした組織づくりの検討や各校種ごとの分科会場校の選定、研究主題及び研究内容の検討などを行いました。

平成6年10月7日に研究大会準備委員会が発足し、正式の全体的な組織的活動がスタートしました。

大会の研究主題は、新学習指導要領の趣旨をふまえ、「自ら運動を求め、楽しみ、生涯にわたって運動に親しむ子どもの育成を目指して」としました。

今日のような高度な科学技術の発達之恩を受けている社会において生活の利便性が増大した反面、運動不足を生み出したことや、また、高度に組織化し、しかも変動著しい社会の中で人々のストレスが増大していることなどが、広く健康面で憂うべき状

況を生み出しています。来たるべき21世紀を明るくたくましく生きる豊かな人間を育成するために、生涯にわたって体育・スポーツに親しむことがますます重要になってきました。その生涯体育・スポーツの基礎を培う場としての学校体育の在り方について、一層真剣な努力工夫の積み重ねが求められていると考えます。

研究大会は、平成7年11月9日(木)・10日(金)の両日開催いたします。9日には全体会を香川県民ホールで行います。特別講演については、文部省にお願いして、参加者の期待に応えられる魅力ある講師を目下折衝中です。10日には分科会を、高松市、三木町、牟礼町、香川町の12分科会場で実施します。各分科会場の公開授業については、これまでの先催県の実践の成果をふまえ、授業の質的向上の積み上げを少しでも進められたらと考えております。

屋島、栗林公園、瀬戸大橋、小豆島、金刀比羅宮など名勝や旧蹟の多い香川県でございます。天高く豊かな実りの秋に、多数の皆様のお来県をお待ち申し上げます。

香川大会の開催に当たり、御指導を賜っております文部省、日本学校体育研究連合会並びに企画・運営の細部にわたって御教示いただいております石川県を初め先催県の大会関係者の皆様方に対し、心から厚く御礼申し上げます。

大会を成功させるため関係者一同鋭意努力する所存ですが、全国の関係各位の御支援御協力をお願い申し上げて、次期開催県を代表しての御挨拶といたします。

Network 地区(北から南から)だより



岡山県学校体育研究連合会
会長 石田 広康

「岡山県」学校体育研究の現状

いしだひろやす 1936年岡山市生れ。岡山大学卒、岡山市立三門小学校長を経て、現在岡山市立芳泉小学校校長。岡山県小学校体育連盟会長。中国四国小学校体育連盟副会長。

戦後50年を迎えた我国は、他に類を見ないほどの急成長を遂げ、世界有数の経済大国になった。国民生活も経済の発展とともに豊かになり、特に昭和39年に開催された東京オリンピックを契機に、国民のスポーツに対する関心は年々高まってきた。そして、今では年少者から高齢者に至る幅広い人々の間で多様なスポーツが実践されるようになってきている。

このような中、昭和50年小学校・中学校・高等学校の一貫した体育指導の確立と児童生徒の体力の向上を目指して、岡山県学校体育研究連合会が設立された。

構成は、小学校体育連盟・中学校体育連盟・高等学校体育連盟及び県教育委員会の代表21名から成り、年2回の定例会と体力づくり研究推進大会(下図参照)を開催している。

照)を開催している。

事務局は各体育連盟の持ち回りとし(2年周期)、会長は事務局担当研究体育連盟の会長がその任にあっている。

定例会では、各研究団体の事業の情報交換や学習指導要領に基づいた小・中・高等学校の一貫した体育指導の方向、発達段階に応じた体力づくりのあり方等について話し合い、岡山県の学校体育の指針となっている。

今後とも、小・中・高等学校との連携や研究推進体制の一層の充実と強化を図り、また生涯体育・スポーツを重視した新しい学力観に基づいた、授業研究に主体的に取り組むことで、自ら進んで運動に親しむ児童・生徒の育成に努めたい。

平成6年度岡山県体力づくり研究推進大会の概要

- 1 目 的
小学校・中学校・高等学校の一貫した体育指導の確立を図り、本県学校体育の充実発展に寄与するとともに、児童生徒の体力づくりの推進に資する。
- 2 主 催
岡山県教育委員会 岡山県学校体育研究連合会
平成7年2月23日(木)
- 4 対 象
小・中・高等学校の体育担当教員、養護教諭、教頭・校長等、教育委員会の職員
- 5 日 程
9:30 12:00 13:00 15:30
受付 開会 講 演 昼食 分科会 閉会
発表 研究協議
- 6 内 容
(1) 講 演 広島市立大学教授 荒井貞光先生「これからの学校体育・スポーツのあり方」
(2) 実践発表及び研究協議
第一分科会(教科体育における体力づくり) ※各分科会小・中・高の各代表
第二分科会(特別活動における体力づくり) 3名が実践発表
第三分科会(運動部活動や課外活動を通した体力づくり)

「宮城県」学校体育研究の現状



宮城県学校体育研究連合会
会長 石井孝治

本県の学校体育研究は、学校現場や大学研究室などを中心としたグループでの活動から、県全体を組織化した機関まで様々なものがあるが、今回は県レベルのものを紹介したい。

① 宮城県学校体育研究協議会

昭和41年に「小・中・高・大学がお互いの特性を理解し、指導体勢の一貫性をはかる」趣旨で、小・中・高の各研究団体と大学の指導者によって結成し、第1回宮城県学校体育研究大会が開催された。その後、幼稚園と女子体育指導者の団体が加盟して、現在は幼稚園から大学までの体育指導者が、一同に集う研究大会までに発展した。

この大会は毎年11月に一日の日程で行われて、小・中・高から各々1～2名による研究発表と研究討議、そして講演シンポジウムという型で実施している。研究テーマは数年間継続しているが、その年度の研究課題をキーワードで示すことで、取組みの要点と共通性を図っている。取組みによっては幼稚園や高専・大学からも発表している。

今年は第30回記念「宮城県学校体育研究大会、並びに平成7年度宮城県学校体育指導者研修会」が仙台で開催される。記念行事として、記念誌をこれまでの研究集録からまとめて発行し、尽力された先輩方を表彰、併せて盛大な祝賀会を計画している。

この歴史的な経緯の中には、昭和62年に第26回全国学校体育研究大会の開催があった。

② 宮城体育学会

日本体育学会宮城支部（会員約80人）の活動として専門分科会による例会があるが、年によって学校体育に関する課題で行っている。また、支部を母体として一般からも参加できる体育学会には、学校体育に関する研究発表がある。そして、年1回発刊される機関誌「東北体育学研究」にも、授業研究について中学や高校からの寄稿がある。

いしいたかち 昭和6年ソウル生。
東北大学教育学部卒、涌谷高校、白石女子高校、三島学園女子短期大学、石巻高校、宮城工業高校を経て、現在仙台電波工業高校専門学校教授。

③ 宮城県女子体育連盟

昭和34年にダンスを中心とした女子体育の研究機関として結成された。現在は年2回、夏休みと冬休みに幼稚園から大学までが参加して、講習会と研修会を実施している。平成4年「躍動——みちのくの空に」をテーマに、第26回全国女子体育研究大会が開催され、貴重な体験からますます充実した活動を行っている。

④ 宮城県学校体育スキー研究会

昭和53年に結成し、現在は小・中・高・大・特殊教育、社会体育の指導者など約100名の会員がいる。毎年冬休みに、約50人の参加者がスキー技術と指導法の向上を目指して、2泊3日の日程で実施している。この講習会はスキー実習の他に、夜には課題研究の討議もある。また、情報交換を深める楽しい懇談の場は、この講習会をより魅力的に発展させている。

⑤ 宮城県高等学校保健体育研究会

県内6地区による支部活動があり、支部独自の研究課題によって研究発表や実技研修などを行っている。そして、毎年1月に行われる県の研修会是一日の日程で3人による研究発表と研究討議、そして講演という内容で実施している。また、春の総会には特別講演などを行っている。

⑥ 宮城県連合中学校研究会保健体育部会

県内7地区にそれぞれの体育研究会があり、地区活動を重点に進めている。県組織の活動としては、地区代表からなる幹事会を中心に、中学生健康手帳、保健体育学習ノートなどの冊子を編集している。

⑦ 宮城県連合小学校教育研究会体育研究部

県内7地区にそれぞれの体育研究会があり、統一テーマで研修会を行っている。また、県組織の事業として、夏休み期間に中央講師を招いて、2日間の日程で体育実技などの研修会を実施している。

賛助会員の募集（お願いと申込み方法）

I 趣 意 書

ご承知のように、今日の日本経済はバブル崩壊後の後遺症が依然として強く、景気は悪化し続け倒産に追い込まれた企業も多く、また、企業のみならず、日本全体が進むべき方向を模索している現状も問われ、問題は深刻であります。というのは、これまでわが国の経済社会を支えてきた仕組み（キャッチアップ型）を日本自らの創造性による新しい仕組み（パイオニア型）へと構造改革していかなばならなくなったからです。新しい構造改革には、かなりの時間を要することと思います。つまり、今日の不況脱出は容易ならざるものがあり、この不況脱出には何年かかるかといわれています。

本連合会もこの影響を受け、従来、期待していた寄附金が容易に入手できない見通しが出てまいりました。しかしながら、私どもは、全国の学校体育の発展と児童・生徒の体力向上のために、本会の目的に添って、このようなときにこそ、一層事業の充実・発展を期したい所存であります。

つきましては、平成6年から賛助会員による収入（本連合会・寄付行為第6条——昭和53年～昭和55年頃もありました）によって、不足する寄附金を補いたいと思いますので、何卒、本連合会の趣旨に賛同して頂き、賛助会員になって頂きますよう、ここにお願ひ申し上げる次第であります。

賛助会員には、次の4種類があります。

1. 個人の部

(1) 一般賛助会員……年度会費 5千円

(2) 終身賛助会員……一時会費 5万円

2. 団体の部

(1) 普通賛助会員……年度会費 一口（2万円以上）

(2) 特別賛助会員……年度会費20万円と多額の寄附金（お詫び……31号会報での10万円は20万円の誤りでした）

II 申込み方法

1. お申込み頂く方は、なるべく手数料がかからず、また、事務処理に簡便な郵便振込をご使用くださるようお願いいたします。

① 本年度第2期の振込期日締切は、10月31日（月）といたします。

② 郵便振替払込金受入票の裏面（通信欄）に(1)一賛助会員（年度会費・5千円）(2)終身賛助会費（一時会費・5万円）の区別を確認のためにご記入頂ければ、幸甚に存じます。

2. 学体連事務局（加入者名）の郵便振替口座番号は 00130-2-563814 です。

III 賛助会員の使途について

会員の方々から頂いた、この貴重な浄財は、本連合会の主要な行事である全国学校体育研究大会（昭和37年度 第1回大会より平成6年度は第33回大会、現在、平成9年度 第36回大会の開催県まで決定）や研究大会当日の優良校（約130校）及び功労者（約130人）の表彰、加盟団体の体育研究活動や指導者養成の助成などに有効に使用させて頂きます。

平成6年度下期（個人の部）

賛 助 会 員 一 覧 表

終身賛助会員（一時会費 5万円）				福 岡 6024	山 下 フサエ	宮 城 6100	星 久 重
北海道	6013	町 田 康 雄	鹿 児 島 6025	上 入 来 正 次	秋 田 6101	羽 田 栄 治	
	6014	春 木 利 明			6102	廣 嶋 正 比 古	
岩 手	6015	小 澤 敬	一般賛助員（年度会費 5千円）		6103	高 田 昭 爾	
茨 城	6016	麻 生 稔	北海道	6092	桑 原 夏 子	6104	竹 村 勉
埼 玉	6017	関 根 英 雄		6093	高 嶋 勇 三	6105	今 睦 雄
東 京	6018	新 村 正 雄		6094	栗 原 正	6106	東 海 林 伝 助
	6019	神 田 俊 郎		6095	高 橋 秋 男	山 形 6107	河 田 利 夫
福 井	6020	玉 木 登		6096	廣 瀬 政 治	6108	梅 本 俊 芳
大 阪	6021	垂 井 治 子		6097	石 原 金 治	6109	鈴 木 仁
	6022	有 田 周 平	岩 手	6098	厩 川 英 雄	福 島 6110	橋 本 生 司
岡 山	6023	檜 崎 學 志	宮 城	6099	杉 山 峻	6111	鈴 木 勇

福 島	6112	野 中 儀 一	富 山	6155	大 森 喜多男
	6113	齊 藤 博	石 川	6156	中 森 智
茨 城	6114	樫 村 旭 光		6157	大 架 谷 行雄
	6115	大久保 邦 男		6158	福 岡 克 美子
	6116	秋 山 輝 雄	福 井	6159	前 田 和 子
栃 木	6117	大 貫 隆一郎		6160	瀧 澤 道 一
	6118	増 淵 重 雄		6161	加 藤 峯 太
	6119	大 内 高 和 允	岐 阜	6162	今 井 郎 佑
	6120	藤 本 和 男		6163	福 田 義 朗
		(今回のみ10,000)	静 岡	6164	望 月 健 照
群 馬	6121	櫻 井 和 男		6165	渡 邊 俊 一
		(今回のみ)		6166	山 崎 辰 義
	6122	鳩 山 定 次 晃		6167	中 島 俊 一
	6123	佐 藤 晃 子		6168	渥 美 辰 義
	6124	高 坂 百合子		6169	鈴 木 福 彦
	6125	石 井 鎮 世	愛 知	6170	岡 村 繁 剛
	6126	鍵 田 治 男	三 重	6171	紀 藤 清 寛
埼 玉	6127	平 井 輝 夫	滋 賀	6172	井 坂 一 眞
	6128	山 川 康 男		6173	勝 見 證 眞
	6129	今 村 貞 義	京 都	6174	横 田 千 枝子
千 葉	6130	梶 原 實 治		6175	矢 野 千 一
	6131	倉 持 純 也		6176	土 田 謹 喜
	6132	鈴 木 功 節	大 阪	6177	村 井 秀 雄
	6133	松 本 良 雄		6178	辻 井 宅 馨
	6134	石 井 秀 孝		6179	中 井 三 浩
	6135	稲 阪 正 久	兵 庫	6180	井 上 登 慧
東 京	6136	面 高 良 一		6181	井 井 登 理
	6137	福 島 久 郎		6182	井 井 登 理
	6138	三 浦 綱 米		6183	亀 井 良 八
	6139	柄 本 浩 弘		6184	岡 藤 原 成
		(死亡10,000)		6185	藤 林 山 本
山 梨	6140	三 枝 信 弘		6186	山 本 利 太
	6141	伊 藤 利 雄		6187	澤 村 幸 雄
	6142	今 津 健 次郎		6188	西 村 長 通
	6143	大 沢 仙 蔵		6189	西 村 長 一
長 野	6144	前 島 英 男		6190	中 ノ 保 和 彦
	6145	高 橋 茂 治	奈 良	6191	久 保 和 毅
	6146	西 山 秀 三	和歌山	9192	山 田 繁 親
	6147	黒 岩 村 雪 江	鳥 取	9193	山 田 繁 親
	6148	荻 原 昭 一		9194	雨 宮 嘉 幸
新 潟	6149	高 橋 昭 一		9195	福 山 嘉 幸
	6150	永 野 一 郎		9196	長 谷 山 幸 人
	6151	若 林 栄 男		9197	重 山 幸 人
	6152	本 間 重 男		9198	梅 津 洋 子
	6153	久保田 順 三	島 根	9199	田 熊 瑞 子
	6154	(今回のみ)		6200	確 井 エ イ

上 期 追 加 分	山 形 6089	今 野 鐵 彦
北海道 6087	小山田 明 夫	兵 庫 6091
宮 城 6088	横 澤 美 雄	三 枝 正 己

Gakutairen 事務局だより

1. 平成六年度常務理事会の審議内容

常務理事 神 田 俊 郎



平成6年度、常務理事会日程と審議内容の重点・努力目標を示すと次の通りである。

(1) 日程について

4/15 (金)	5/14 (土)	6/25 (土)
7/23 (土)	9/3 (土)	10/3 (月)
11/12 (土)	12/10 (土)	1/21 (土)
2/18 (土)	3/25 (土)	

8月を除き月1回のペースで行われ、年間11回である。

(2) 審議内容の重点化と努力目標

新会長の意向を受け、学体連全国組織活動の活性化を図る。その実現化のためには、県段階での学体連組織と活動の実態把握。(組織活動としては研究推進に対する諸問題等)。県段階の問題点や意向を十分汲みあげた常務理事会の審議であり、そこから新年度の方策を打ち出して行くことなどの共通解が図られた。ひとつの具体的取り組みとして、前年度の理事・評議員会での提案事項・要望事項等を、速やかに整備し、問題点解決の方向での審議が継続されてきた。

(3) 平成5年度の反省から、主な今後の課題をとり上げて見ると次の通りである。

- 1) 分担金の値上げについて(3年越しの課題なので、各県の理解と協力で実施に運ぶ努力が必要である。
- 2) 平成10年以降の全国大会開催県の決定について(平成9年奈良県予定まで決定しているが、10年以降は、ブロック理事・評議員会での話し合いで方向性を出してもらう)。
- 3) 新年度の理事・評議員の選出時期を、各県段階で早める努力をしてもらいたい。

かんだとしろう 1930年生。福岡第一師範本科卒。福岡県・東京都立中学校教諭・教頭・校長歴任、三鷹立第一中学校・都中学校保健体育研究会会長、中体連副会長後、退職。現在 三鷹市スポーツ振興審議会会長。

4) 長野県所属ブロックの変更とそれに伴う、理事・評議員の定数異動について。(行政上または高校の研究会や高体連の組織上からも、長野県を東海・北陸地区に移す。それに伴い関東・甲信越地区は関東地区に変更する(理事・評議員の定数に若干の変更あり)。

5) 学体連の組織強化について

各県での実情が違うが、学体連組織と、県保健体育課事務局の相互理解が図られ、緊密関係がとれているところは、うまく組織活動として機能している。各県で連けいの方途を見出す努力が必要(九州ブロックが、各県相互に緊密な連けを図りながら、県保健体育課の指導・助言と援助を受け、毎年持ち廻りで、研究活動が、望ましいという方で行われている。ブロックの連けいというところで、十分参考にしてよいと思われる)。

6) 学校体育の諸問題について

- ブロック会で話題に取り上げられた内容
- ※人生の基盤である幼児教育を充実する。
- ※指導者の資質向上。
- ※全国大会研究主題設定が、新指導要領が求めている、課題に迫ろうとするものに、焦点がぼられているか、従来おさえ方が大ざっぱで、研究課題の視点がぼけているとの声も聞かれる。
- ※賛助会の募集について
- 趣旨について、会報、文書、会議等を通じて広報活動を活発に行い、賛同者を一人でも多く募る努力を重ねていく。

以上が平成5年度の反省点と今後の課題のあらま

しである。毎月の常務理事会は、年間事業計画に沿って予定の審議事項がある。それとのかねあいで、上記反省事項をとりあげ改善へどう努力するかが県段階との連携を図る上でもっとも重要なことである。

さらに平成6年度各月別に特に強調されてとりあげられた審議事項は、次の通りである。

○平成6年度第一回理事・評議員会開催のための諸準備について (4・5月) 集中審議

○講習会・研修会の実施計画について (4月)

○第一回理事・評議員会の反省 (6月)

○文部省提出書類の確認と平成6年度、体育優良校、体育功労者選考のための中央審査会の開催について (7月)

○各県より申請の助成金支出について (〃)

○各県会長宛のアンケート内容についての検討(第一回理事・評議員会の開催日時。各県役員選出の時期、補助金の助成等について調整する)。(7月)

○全国大会に向けての諸準備 (9・10月)

○全国大会の反省と次期大会への課題検討 (11月)

○会報32号の編集内容について (11・12月)

○研修会(講習会)幼・小・中高の本年度反省と来年度への課題 (12・1月)

○幼稚園の組織づくり (〃)

年間常務理事会審議内容の概要を紹介すると以上の通りである。理事会・評議員会の意向を常に念頭において審議に努力したことを報告しておきます。

2. 平成7年度 研修会及び全国大会日程と申込み方法



理事長 岡 野 伊与次

おかのいよじ 1924年、茨城県生。東京第一師範卒、公立小学校教諭、新宿区教育指導主事を経て、公立小学校校長、都小体研会長後、退職。現在、埼玉短期大講師その他、共著「新しい運動会のかふう」「あそびと運動」その他。

(1) 第26回 全国学校体育実技研修会

◇幼稚園・保育園の部

・日程及び場所

平成7年7月27日(木)・28日(金)

東京都台東区立竹町幼稚園 体育館(小)

・テーマ

「幼児一人ひとりの心身の動きを育てる運動的遊びと教材の工夫」

・日 程

時	9:00～ 9:20	9:30～ 9:50	10:00～ 11:50	昼	13:00～ 14:30	14:40～ 16:20
27	受付	開会式	講義(1)		実技(1)	実技(2)
時	9:00～ 9:30	9:5～12:00		食	13:00～ 14:50	15:00～ 16:00
28	受付 ビデオ	— 講義と協議会			実技(3)	創作 発表会

・内 容

(1) 講 義

その1 「幼児の動きが誘発される環境」

— 物と人とのかわり —

◎ 青木 久子 東京都立教育研究所
幼児教育研究部統括主任指導主事

その2 「記録とビデオ もう一回やろうよ」

— 視聴後協議する —

◎ 山本ツタ子

聖徳短期大学保育科 教授

(2) 実 技

その1 「手具を使った運動遊び」

— ボール・なわ・棒・フープ —

◎ 北原 隆

東京教育専門学校 講師

その2 「伝承遊びと生活のうか」

— うた・手遊び・リズム遊び —

◎ 永井 ちえ

東京都台東区立竹町幼稚園教頭

その3 「動く楽しいゲーム」

— 教材づくり(音を出す) —

◎ 江本 元

日本レクリエーションコーディネータ

◇小学校の部

・日 時 平成7年8月1日(火)・2日(水)

・場 所 未 定

・テーマ

「自ら進んで運動に親しむ能力や態度を育てる体育学習」

・日 程

日 8 時30	9 00	9 30	11 00	12 30	14 00	15 30	17 00
1日 8・1 火	受 付	開 講 式	表現運動	ゲーム	昼 食	器械運動	陸上運動
2日 8・2 水	受 付	基本 の 運 動	体 操	開 講 式			

(注) 実技受講者の実数が80人以上の場合には、A班・B班の2コースとする。

・講 師

大学教授：東京都各区市体育担当指導主事等

(2) 第5回全国中学校・高等学校保健体育実技研修会

・日程・場所

平成7年7月1日(土)午後1時

東京都十文字高等学校 体育館

・テーマ

3. 平成7年度 事務局からのお願い

平成6年度度は各県の事務局、賛助会員の皆様方のご協力をいただき事務処理が滞りなく出来ましたことに感謝しております。本年もご無理なお願いや期限の定められた書類等が送付されるかと思いますが、どうぞご協力ご配慮のほど重ねてお願いいたします。

I. 「納入金」の納入方法について

① 分担金等納入方法について

イ) 分担金

ロ) 全国学校体育研修申し込み

(幼稚園、保育園の部、小学校)

ハ) 全国学校体育研究大会の資料集の申し込み
(香川県)

ニ) 一般賛助会費

ホ) 中学校選択制授業の計画と展開
(体育分野の本)

郵便振込

00130-2-563814

学体連事務局 — いづれも書類発送時に振込用紙を同封致します。

② 特別賛助会費の納入方法について

振込宛先 三菱銀行 新宿西口支店(054)

普通預金 口座 6418028

「ダンスを通して運動の楽しさを味わう」

・申込方法

〒151 東京都渋谷区佐々木神園3-1

国立オリンピック記念青少年総合センター内

財団法人 日本学校体育研究連合会

会 長 浅 田 隆 夫

TEL 03-3465-3954

FAX 03-3465-7464

(1) 参加費 小・中・高校とも5,000円(資料費・講師謝礼・会場費・雑費)

(2) 会費振込方法

○別添郵便振込用紙を使用して振り込む

○振込用紙がない場合は、近くの郵便局で振替用紙を使って振り込む

口座番号 東京 00130-2-563814

学体連事務局

(3) 第34回 全国学校体育研究大会

・日程・場所

平成7年11月9日(木)・10日(金)

香川県民ホール

事務局 山 本 久 子

(例) 日本学校体育研究連合会

会 長 浅 田 隆 夫

※郵便振込でも可、用紙送付致します。

II. その他、連絡事項

① 事務局の開局時間について

月水金曜日の13時～17時まで出勤しております。所用で席を離れることもあると思いますが連絡の取れない場合は留守番電話かFAXをご利用ください。

事務局電話番号 03-3465-3954

FAX 番号 03-3465-7464

② 事務局本部

国立オリンピック記念青少年総合センター内
15号棟2Fが学体連事務局の本部です。

③ 「中学校選択制授業の計画と展開」体育分野の本が少々残っております。ご利用下さい。申し込みは、FAXかTELで。

④ 阪神大震災から2カ月が経ちました。被災者の方々には心からお見舞とお悔みを申しあげます。被災された学校や個人で「学体連」関連のことから(賞状や資料の焼失など)で何かございましたご連絡ください。

平成6年度 役員・理事・評議員一覧表

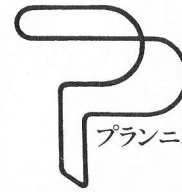
H6.7.30現在

財日本学校体育研究連合会

TEL:03-3465-3954 FAX:03-3465-7464

担当職務	氏 名	現 職・職 名	電 話	担当職務	氏 名	現 職・職 名	電 話
名誉会長	大石三四郎	筑波大学名誉教授	自0480-65-7813	常務理事	深川 良郎	国土館大学文学部教授	03-5481-3231
会 長	浅田 隆夫	筑波大学名誉教授	自03-3312-1891	同	大畑 重實	元筑波大学附属ろう学校副校長	0471-74-7150
理 事 長	岡野伊与次	元新宿区立戸塚第二小学校校長	自03-3419-0408	同	内藤 澄子	(私)江戸川区みなもと幼稚園園長	03-3656-4764
常務理事	神田 俊郎	元三鷹市立第一中学校校長	自0426-44-3458	監 事	片岡 明夫	筑波大学教授	0298-58-6340
同	金森 久	茨城県立二峰高等学校校長	0471-82-0101	同	陸岡 晋平	国立特殊総合研究所教育工学部教授	045-774-2211
同	石黒 健	千代田区立昌平小学校校長	03-3251-0448	同	植木 清隆	前豊島区立千早中学校校長	自0423-93-6863
同	小池 国雄	杉並区立向陽中学校校長	03-3302-2989	事務局	山本 久子	学体連事務局職員	自03-3651-7477
同	松田 智男	東京都教育庁人事課人事計画課	03-3212-5472				

No	都道府県名	理事氏名	現 職・職 名	電 話	評議員氏名	現 職・職 名	電 話
1	北海道	金井 孝	札幌市立大通小学校校長	011-251-0228	高辻 松興	北海道札幌市立南小学校校長	011-854-1318
2	青 森	根澤 貞男	青森県立弘前中央高等学校校長	0172-35-5000	玉置 重実	北海道札幌南陵高等学校教諭	011-591-2102
3	岩 手				花田 稔	青森県立青森工業高等学校教諭	0177-81-8111
4	宮 城				伊藤 章一	岩手大学教育学部教授	0196-23-5171
5	秋 田				石井 孝治	仙台電波工業専門学校教授	022-392-4761
6	山 形				長谷部 謙	秋田市立八幡小学校校長	0188-62-6930
7	福 島				堀江 昭	山形県立長井工業高等学校校長	0238-84-1662
8	茨 城	大和田芳郎	茨城県立水戸商業高等学校校長	0292-24-4402	小原 晃	福島大学教育学部教授	0245-48-5151
9	栃 木				五藤 晃	茨城県水戸市立第一中学校校長	0292-24-2424
10	群 馬				荒川 伸夫	栃木県立矢板東高等学校校長	0287-43-1243
11	埼 玉				高橋 毅	群馬県立太田女子高等学校校長	0276-22-6651
12	千 葉	原原 誠實	千葉県立柏領芝山高等学校校長	0474-63-5331	菅野 達也	埼玉県立浦和高等学校校長	048-886-3000
13	東 京	川端 春生	東京都立大泉学園高等学校校長	03-3924-3185	関川 秀夫	千葉県酒々井町立酒々井中学校校長	043-496-1040
14	神 奈 川				岩下 和夫	東京都日野市立第一小学校校長	0425-81-0061
15	山 梨	早川 省三	山梨県甲府市立東中学校校長	0552-33-1378	佐藤 信則	東京都杉並区立阿佐ヶ谷中学校校長	03-3313-2261
16	長 野				小田島正門	東京都立本所高等学校校長	03-3622-0030
17	新 潟				嶋崎 弘明	神奈川県厚木市立伏知小学校校長	0462-45-4611
18	富 山				酒井 利雄	神奈川県川崎市立南加瀬中学校校長	044-588-6427
19	石 川	小藤 典行	石川県金沢市立浅野川小学校校長	0762-38-2034	内藤 友男	山梨県立韮崎工業高等学校校長	0551-22-1531
20	福 井				中谷 定幸	長野県南筑輪村立南筑輪中学校校長	0265-72-3309
21	岐 阜				九山 一由	長野県大町市立大町北小学校校長	0261-23-0190
22	静 岡				長沼 邦男	新潟県立白根高等学校校長	025-372-1285
23	愛 知	丸山 益生	愛知県立岡崎西高等学校校長	0564-25-0751	笠間 正明	富山県立水鏡高等学校校長	0764-79-1077
24	三 重				中野 達男	石川県松任市立松尾小学校校長	0762-76-1266
25	滋 賀	田中 敏孝	滋賀県浅井町立浅井北小学校校長	0749-74-1801	平井 希尚	福井県立鯖江高等学校校長	0778-51-0001
26	京 都				宮崎 廣彦	岐阜県立羽島高等学校校長	0583-92-2500
27	大 阪	森口 章	大阪府立久米田高等学校校長	0724-43-6651	田村 耕一	静岡県立富士宮北高等学校校長	0544-27-2533
28	兵 庫	河合 邦光	兵庫県立川西明峰高等学校校長	0727-57-8826	水谷 啓三	愛知県海部郡弥富町立崇南小学校校長	0567-68-8015
29	奈 良	浦久保 繁	奈良県立添上高等学校校長	07436-5-0558	野崎 一興	三重県四日市市立笹川西小学校校長	0593-20-2080
30	和 歌 山				市川 清	滋賀県今津町立今津中学校校長	0740-22-2161
31	鳥 取				永田 紀彦	京都市立松原中学校校長	075-841-0650
32	鳥 取	野上 野弘	鳥取県松江市立第四中学校校長	0852-21-2734	兵田 洋	大阪府箕面市立箕面野東小学校校長	0727-29-3008
33	岡 山				山口 勝彦	大阪府立瓜破西中学校校長	06-705-0700
34	広 島				石川 正一	兵庫県姫路市立西宮小学校校長	078-362-3787
35	山 口				阪本 勝彦	兵庫県姫路市立西宮小学校校長	078-362-3787
36	徳 島				神野 良樹	奈良県磯部市立城島小学校校長	07444-2-2344
37	香 川	益田 勉	香川県立高松西高等学校校長	0878-82-6411	清水 修	和歌山県立大新小学校校長	0734-33-1471
38	愛 媛				山下 旭	鳥取県東伯郡東伯町立東伯中学校校長	0858-52-2326
39	高 知				堀谷 忠幸	鳥取県平田市立平田小学校校長	0853-63-3155
40	福 岡				石田 広照	岡山県立芳泉小学校校長	086-264-6706
41	佐 賀				木下 亮	広島県立戸坂小学校校長	082-229-0250
42	長 崎				入江 彰治	山口県防府市立中園小学校校長	0835-22-0566
43	熊 本				遠藤 寛	徳島県立福島小学校校長	0886-21-8197
44	大 分	阿野 信治	大分県大分市立頌田中学校校長	0975-34-6359	奥田 英道	香川県高松市立一宮中学校校長	0878-85-1664
45	宮 崎				遠藤 三男	愛媛県松山市立内宮中学校校長	0899-78-0046
46	鹿 児 島	森田 賢	鹿児島県立鹿児島工業高等学校校長	0992-22-9205	前田 幹夫	高知大学教育学部教授	0888-44-0111
47	沖 縄	前城 文彦	沖縄県王城村立王城小学校校長	098-948-7251	宮司 宗明	福岡県立平尾中学校校長	092-521-1768
					石橋 武俊	福岡県立草ヶ江小学校校長	092-771-3815
					井上 誠治	佐賀県鹿島市立東部中学校校長	095-483-5245
					山村 秀男	長崎県立諫早農林高等学校校長	0957-22-0050
					木原 雄治	熊本県立水川高等学校校長	0965-52-3611
					井元 吉治	大分県立判田小学校校長	0975-97-0078
					樋口 睦	宮崎県立西池小学校校長	0985-24-2611
					中村 満	鹿児島県立長田中学校校長	0992-26-3868
					金城 繁雄	沖縄県東風平町立東風平小学校校長	098-998-2105



プランニングからプリンティングまで

信頼と実績の

● 御注文専門の印刷デパート

東京
墨田

合同印刷株式会社

東京都墨田区業平2-9-13 TEL(3624)6111(代) FAX(3621)4620

代表取締役会長

長 棟 至 元

代表取締役社長

長 棟 和 子

財団法人 日本学校体育研究連合会 特別賛助会員

新刊紹介

編集・発行 財日本学校体育研究連合会

中学校選択制授業の計画と展開

— 体育分野 —

新学習指導要領に基づく望ましい選択制授業の実践

本書は、選択制授業の進め方の理論と実際について、東京都の中体研のグループが3年間取り組み組んだ努力の結晶です。指導実践の計画例は、本連合会傘下の先進地区や学校の資料も活用・紹介されています。

選択制授業をどのように進めていけばよいのかについて、個人・学習グループ・ブロックなどで広く学習実践の資料としてご活用ください。

(申込み方法 — 郵便または電話で本部まで)

財日本学校体育研究連合会事務局

〒151 東京都渋谷区代々木神園3-1 国立オリンピック記念青少年総合センター内

TEL 03-3465-3954 FAX 03-3465-7464 (係・山本)

創造性豊かな、スクールスポーツウェアを提案します。

学ぶ人から
学んでいる。



Columbine
コロバインスクールスポーツウェア
(財) 日本学校体育研究連合会推薦
(財) PTA 全国協議会推薦

児島株式会社

◆岡山県倉敷市児島小川2-4-60
TEL (086) 473-4634
◆関東営業所/TEL (048) 642-5883
◆盛岡営業所/TEL (0196) 38-7501

スポーツ科学の未来に向けて

SPORTS TEST

マークシート記入代行サービス
生徒氏名は見やすい漢字表示
処理にかかる手間と時間を短縮

集計・分析処理料金 1人分210円

2週間で、集計・分析資料をお届けします

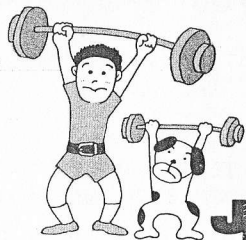
(東京) 〒116 荒川区西日暮里2-50-5 (03) 3891-9802
(大阪) 〒564 吹田市江坂町2-1-11 (06) 380-1391
(広島) 〒733 広島市西区横川新町7-14 (082) 234-6800
札幌・仙台・小山・横浜・名古屋・福岡

みつめたい教育と未来
第一学習社
スポーツテスト研究会

傷害保険
海外旅行保険
学生総合保険
火災保険

ジェイアイができること。

国内はもとより海外の主要34都市に、
ネットワークをもつ "Ji デスク" を
中心に、皆様ひとりひとりの安心を
カタチにするお手伝いをいたします。



◆各種損害保険に関するお問い合わせは、フリーダイヤルでお気軽に。
0120-292-797

インターナショナル安心ネットワーク
ジェイアイ傷害火災保険株式会社
〒102 東京都千代田区一番町20-5 TEL 03(3237)2111

こころをないせつにする
旅づくり。



いい旅つくります
日本旅行

東京都港区新橋2丁目20番15号 TEL (03) 3572-8714 (代表) FAX (03) 3574-6279
財団法人 日本学校体育研究連合会 特別賛助会員

住まい美しく、
暮らし快適に。



'95年で20周年を迎える新興産業が、
長年の実績と確かな技術で、これか
らみなさまの理想の住まいづくりに
お応えします。



財団法人 日本学校体育研究連合会 特別賛助委員

建設大臣許可 (般-6) 11464号
新興産業株式会社
本社: 〒151 東京都渋谷区代々木2-20-14 第一新ビル

■お客様相談室フリーダイヤル
0120-200777
受付時間/9:00~24:00 日・祭日も受付OK/

資料請求
学校連絡
第12号

お中元・歳暮などの贈物としてお申し込み頂ければ割引価格にて購入できます。

ミリオンの緑黄色野菜ジュース、新登場。

健康食品のミリオンだからできた新しい緑黄色野菜ジュース。ガン予防に効果があると言われる、10種類の緑黄色野菜を使用、さらに完全無農薬「ミリオンパワー」をブレンドすることで、よりパワーアップ！味もいっそうマイルドになりました。もちろん無添加、とてもヘルシー＆おいしい一本です。



1本160g.....250円(税別)
1ケース(30本入).....7,500円(税別)



お問い合わせは
フリーダイヤル 0120-229-315 ミリオン株式会社
長寿・健康生活の輪を広げる

資料ご希望の方は、ハガキに資料請求券を貼り、住所・氏名・年齢・職業・電話番号をご記入の上、下記までお申し込み下さい。〒331 埼玉県大宮市桜木町1-12-5 ミリオン株式会社 資料請求係

財団法人 日本学校体育研究連合会 特別賛助会員

教育吸圧(緩圧)シューズ

舗装道路とコンクリートの建物は、カガトの骨を破壊し、疲労骨折を誘発している。

JESに学問を！
科学された教育(吸圧)シューズ！

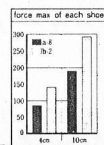
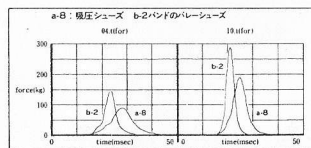
——ヒールストライクの衝撃圧力を吸収し、
反射圧力を緩和する。——



カラー：白・赤・青・黄・緑
サイズ：14.0～29.0cm

カラー：赤・青・黄・緑
サイズ：21.0～29.0cm

カラー：赤・青・黄・緑
サイズ：20.0～29.0cm



result table of shoe				
	A	B	C	D
1	force(kg)	act. max(N/10)	act. max(N/10)	equivalent
2	a-B-04	208.8	343.28	-401.44
3	a-B-10	191.98	960.6	-828.06
4	b-2-04	144.18	348.59	-433.36
5	b-2-10	293.92	699.48	-537.2

筑波大学スポーツ力学研究室



(財)日本学校体育研究連合会特別賛助会員
文部省許可(社体第32号) 公益信託 日本教育シューズ学校体育振興基金

日本教育シューズ協議会